

よっぱらってけんかをしたり、お酒に大金を使いすぎる人もいなくなりました。

⑥ 与右衛門さんは自分の勉強だけでなく、村人のために勉強会を開いたり、門人たちにも学問を教えるようになりまし。

与右衛門「この頃は忙しくなってきた、村の人たちが酒を買いに来て、もいちいち店に出られなくなってきたな。どうしたものかな。」

与右衛門「そうだ。家の入口に酒のかめと、ますを置いて、欲しい人は自分のとつくり



に必要分だけ入れ、お金も中へ入れてもらおう。そうすれば、

私は勉強や講義に集中できるな。」

与右衛門さんはさつそく、酒の入ったかめと、量るます、それにお金を入れる竹の筒を置きました。そして張り紙を出しました。

『お酒のいる人は、かめにあるお酒を自由にはかって持って帰ってください。代金はその竹筒に入れ

てください。店主』

門人たちはおどろいて言いました。次郎「与右衛門さん、そんなことをしたらみんなお金を払わずにお酒だけを持って行ってしまいますよ。」

三太「私たちがかわるがわる番をしましょう。」

と口々にいつて心配しました。でも与右衛門さんは言いました。

与右衛門「いやいや、人はみんなだれでもきれいな心を持っている善人なんですよ。そんな悪いことをするはずがないよ。」

与右衛門さんは少しも気にせず、講義に精を出しました。

毎日、夕方になって調べると、代金はきちんと竹筒に入っていて、みんなもおどろきました。

⑦ 今日もいいお天気です。隣村の「かも祭り」の日です。この日も与右衛門さんが、部屋で勉強しているとちらつと、外の様子が見えま

た。与右衛門「あれ、このあたりではあまり見かけたことのない人がお酒を買いに来ているな。」

と、なんとなく見ていると、その人は一升とつくり三本に酒を入れると、そのまま帰ってしまいました。その様子を見ていた与右衛門さんはその日の売上帳に、

『こんずわらじにがまはばき知らぬ



お方に酒三升しかもその日はかも祭り』

*こんずわらじ
普通のわらじとちがいで、紐通しを作らず、紐をわらじ底に編み込んだ、はきもので遠距離など遠出の時に使用するもの。

がまはばきⅡがま(水辺に生えている植物)の茎で作った、足のすねに巻きつける脚絆とさらさらと、筆を走らせました。門人たちは心配しました。

五平「私なら探し出してでも、金を払わせるのに、与右衛門さんは売上帳に歌なんか書いていて大丈夫かな。」

与助「お金を払わずにだまって三升もの酒を持ち帰るとは悪いやつだ。与右衛門さんは酒泥棒を捕まえることもせず、気にもしない。なんて心の大きな人なんだろう。」

ところが四日ほどたつとまた、その人が店へ来て、酒は買わずに、自分の財布からお金を出して竹筒に入れると、家のほうに一札をして、静かに帰っていききました。六兵衛「与右衛門さん、お金を入れ

て帰っていききました。」

与右衛門「人はみんな美しい心を持つているんですよ。」

与右衛門さんは、いつもよりここにこしながら言いました。そこにいた人たちも温かい心地になりました。

⑧ 勘助「与右衛門さん、今日は疲れました、お酒を下さい。」
村の人が与右衛門さんの店へ入ってきました。

与右衛門「勘助さん、お疲れ様、今日は何の仕事をされたんですか。」



勘助「はい、田んぼの草取りを一日していましたが、腰や足が痛くなつてしまいました。」

与右衛門「それは大変でしたね。それならこれくらいのお酒を飲んでゆつくり寝れば、きつとまた、明日は元気になりますよ。」

勘助「ありがとうございます。ところで与右衛門さん、ひとつ困っていることがあるんですが、教えてくださいませんか。」

与右衛門「どうしたんですか。勘助さん。」